

2023(令和 5)年度 事業報告(第 1 号事業)

一般財団法人ひふみ会(以下「当法人」という。)の 2023 年度は、21 年度に定めた経営 5 か年計画の 3 年目にあたり、2023 年度の「まちおからしさを探す冒険」に出発するための年として、経営計画では位置づけています。

そのために、病院機能として、中長期的にどのようなサービスを提供するべきかを考えることが必要と考え、自院の強み/弱みや、課題に正面から向きあうという意味を込めて、23 年度の法人テーマを『ふみこみ、ふみだし、超えていく』を定めて事業運営をしてきました。

以下、本事業について各号に従ってご報告させていただきます。

1 地域を支える医療機関としての医療機能の充実

本年度は、病棟担当の常勤医師 2 名体制に加え、新しく在宅診療医師を1人着任しました。常勤医師と非常勤医師とで協力をしながら入院患者及び外来、在宅患者への医療提供をしてきました。

当院の医療機能の充実を目指して、下記の5項目を中心に機能強化を図ってまいりました。

- ① 年間平均病床稼働 60 床の達成
- ② 日当点 19,000 円の達成
- ③ 医療とケアの質の向上(慢性期医療協会の CI*を基にした機能評価など)
- ④ 訪問診療事業について
- ⑤ 外来部門について

*CI:クリニカル・インディケーター

以下、各点において報告をさせていただきます。

① 年間平均病床稼働 60 床の達成

年間平均病床稼働率は 55.7 床と、目標の 60 床には及ばない結果となりました。主な要因は、前年度に発生した院内クラスターによる入院受入停止期間が本年度まで影響していること、また、本年度の 8 月～11 月の期間では、一時的に看護職員の離職が増え人員不足となったことで迅速な入院患者の受け入れが難しい状況であったことが挙げられます。

一方、入院の稼働率を月次トレンドで見ると、右肩上がりに上昇しており 2024 年 3 月では、直近 3 年間で最も高い 59.4 病床となりました。2024 年度以降も引き続き安定した病床稼働の実現に向けて改善を進めてきております。

② 日当点 19,000 円の達成

食事代を含め 1 日あたりの入院日当点は、19,400 円/日と目標を達成しました(24 年 3 月時点、なお、新型コロナウイルス感染症対策のための特別加算の影響控除後)。

入院日当点は、医療依存度や介護必要度が高い方ほど診療報酬が高く設定されており、職員が一丸となり重症度の高い患者さんの受入れが出来る環境を整備した結果が現れています。

③ 医療とケアの質の向上(慢性期医療協会の CI*を基にした機能評価など)

医療の質の向上の取り組みとして、日本慢性期医療協会が公表するクリニカルインディケーターの「病棟臨床指標」の項目の計測を試みました。測定値では、経口摂取改善率などいくつかの指標で高評価のa評価、褥瘡発生率も中評価の b 評価でした。一方、患者抑制率では改善を要する事が明らかとなりました。2024 年度以降、医師・看護部が中心となり多職種で指標の改善に向けた取り組みを進めていきます。

また、コロナ禍における家族との面会制限も緩和し、本年度中には、365 日、午後 3～5 時の面会ができる体制を整えました。長期入院されている患者も多い中、家族との時間も大切にしてきました。

④ 訪問診療事業について

訪問診療事業は、地域の高齢者や通院困難な方々への医療提供を目的として展開しています。2023年7月に、家庭医療専門医が常勤医として着任し、以降、利用者数は約50名に増加しました。また、年間で3件以上の看取りにも対応しています。

当法人の訪問看護リハビリステーションをはじめ、周辺の病院や施設、訪問看護ステーションとも連携を強化しています。今後の計画としては、来年度には医師を更に1名採用し、更なるサービス拡充を目指します。

地域のニーズに応え、訪問診療の需要に対応する体制を強化し、周辺施設との連携を密にし、看取り患者への対応をさらに進めていくことを目指します。病院とも連携を強化し、入退院をシームレスに行える体制を目指します。

⑤ 外来部門について

外来部門では、内科、漢方、整形、リハビリテーション、予防医療(健康診断やワクチン)、高齢者の ACP などといった患者さんの人生の中のステージとそのニーズに合わせて、サービス提供をしています。

外来患者数に関しては、特にかかりつけ機能を高めることを挙げられておりましたが、病棟の課題なども重なりプロジェクトとして十分に進めることができなかったため、2024 年度に再度プロジェクトメンバーを再編成し進めていく方針です。一方、質的な経過としては、訪問サービス(訪問診療、訪問看護リハビリ)の拡大に沿って、外来診療から、訪問診療へ紹介するケースなども増えてきたため、法人内、部署間連携も少しずつできるようになってきました。

2 院内環境の改善

今期は、引き続き働きがいのある職場作りを目指し院内環境の改善に取り組んでまいりました。

(1)ハード面での環境改善

- ① 外来カルテの電子化
- ② 入院の電子カルテの導入推進の継続
- ③ ポータブルレントゲンの導入
- ④ オンライン資格確認の開始
- ⑤ PCR検査機器導入
- ⑥ ベッドサイドモニターの導入

(2)ソフト面での環境改善

- ① 給与計算・経理関係のIT化
- ② 福利厚生改善
- ③ 人間ドック休暇/新型コロナウイルスワクチン休暇の新設
- ④ 給与明細のWEB化

3 その他各委員会やプロジェクトに関して

(1) 各種委員会の実施

- ① 栄養管理委員会（毎月1回、年間12回）
- ② 院内感染対策委員会(毎月1回、年間12回)
- ③ 褥瘡対策委員会(毎月1回、年間12回)
- ④ 医療安全管理委員会(毎月1回、年間12回)
- ⑤ 医療ガス・医療機器安全管理委員会（年1回）
- ⑥ 個人情報保護対策委員会(年1回)
- ⑦ 診療録管理体制委員会(隔月1回 年間6回)
- ⑧ コーディング委員会(年4回)

(2) 安全管理のための職員研修会の実施

- ① 医療安全管理研修(9月・11月)
- ② 院内感染対策研修(11月・2月)
- ③ 医薬品安全使用研修(5月・11月)
- ④ 医療機器安全管理研修(随時)
- ⑤ 個人情報保護研修(6月)

(3) 防火・防災訓練の実施

- ① 基礎訓練(院内の設備・器具の操作など)

- ② 消防署の参加協力による防火・防災訓練(消火器使用訓練) 11 月
- ③ 夜間体制時における防火訓練 6 月

4 年間行事

行事については、昨年度とは異なり院内でのイベントだけでなく院外、町内会等の催し事等も開催されており、院内においても通年開催しているイベントだけでなく、入院患者さんに初詣をしてもらいたく神社を模様したり絵馬を書いてもらい奉納を行いました。また、院外では近隣の町内会の夏祭りも再開され町内会との連携をして取り組むことができました。

(1) 院内行事

- | | |
|-------------|------|
| ① 花見会・バザー | 4 月 |
| ② セ夕会 | 7 月 |
| ③ 納涼会 | 8 月 |
| ④ クリスマス会 | 12 月 |
| ⑤ 一二三神社での初詣 | 1 月 |

(2) 院外行事

- | | |
|-------------|-----|
| ① 小野路町内会夏祭り | 7 月 |
| ② 野津田町内会夏祭り | 8 月 |
| ③ 他施設の行事参加 | |

以上

2023(令和 5)年度 事業報告(第 2 号事業)

今年度も、当院内(8号室・13号室・10号室)において、東京都からの受託事業である重症心身障害児(者)介護施設「一二三学園」(以下「学園」)という。)を運営しました。

「まちだ丘の上病院」としての歩みは6年目となり、一昨年度より「あなたらしい『生き方』を大切にす
る丘の上」と未来を見据えたビジョンを決め、5年計画を立てて歩んでいます。今年はその3年目とな
りました。1年目よりテーマを定め、そのテーマを意識しながら歩んできました。

当法人は、今年度より次のステップに向け大きく3部門(病院・障害福祉・在宅地域)に分けて目標を
設定しました。それぞれの部門で中心となる会議(まんなか会議)で話し合いを持ち業務の推進をし
ました。第2号事業は障害福祉部門となり、一二三学園事業と障害者総合支援法に基づく事業(短期入
所事業・相談事業、医ケア児日中預かり事業)について目標を立て事業を行ってまいりました。

以下それぞれの事業に沿って説明をしてまいります。

1 総合支援法に基づいた事業

(1) 空床利用の短期入所事業について

今年度は新型コロナウイルス感染症が5月より 5 類となり 3 年ぶりに通常通りの受け入れが
出来るようになりました。東京都からのベッド確保は、都に実績を示し10月より1床増え4床とな
りました(1日1床の確保料 4,800 円)。

また、看護科の協力を得て、医療ケア児(者)の受け入れも増加してきています。この重度者の
受け入れ実績が 10,2%以上となり、次年度より重度者受け入れ加算(受け入れた日 1日
10,600 円)が取得できる見込みとなりました。年間通した稼働は 1 日あたり平均 4.4 床でした
(目標4床)。

(2) 相談支援事業

障害をお持ちの児童や保護者からの要請により、障害福祉サービスの計画作成を行う事業
「ひふみ相談支援事業所」を6月に開設しました。開設経緯としては、当院を利用する短期入所
の保護者から相談事業所が少なく困っているという声や、特別支援学校からの依頼などが背景
としてあります。短期入所の利用者数名も対応しており、既存の他の障害福祉部門の事業との
親和性もある見込みです。

現在、相談依頼要望は多くあり、今年度は1名の相談員で対応していたが、次年度は相談員を
増やしていく予定です。それにより大きく成長することが予想される事業となりました。

(3) 医療的ケア児の日中預かり事業

東京都が10月より始めた新規事業で、まだ 2 か所しかないモデル事業として、当法人でも新
しく取り組むことになりました。目的は医療的ケア児(医療スコア16点未満)児を抱えていて働く
ことが出来ない保護者の就労支援で、医ケア児(18歳未満)を日中預かる事業となっています。

新しい事業でもあり、まだ認知度が低く実績は作れませんでした。次年度以降はさらに広報

にも力を入れに、受け入れに向けて取り組んでいきます。

2 学園事業全般について

(1) 今年度について

障害福祉部門として、今年度のテーマ「ふみこみ ふみだし 超えていく」を意識しながら歩んだ1年となりました。

学園生の減少(定員15名のところ現員10名)を受け、学園の今後の進む方向を定めていかなければならないタイミングでもあり、今年度は、部門内での検討および学園性の保護者も含めた協議などを重ねて行ってまいりました。以下、詳細についてご報告します。

(2) 学園の収支状況

学園は定員15名に対して、現在は10名で運営しています。学園の収入は東京都からの委託料が主であり、今年度の1人当たりの1か月単価は 383,000(前年度より 6,000 円増)円となりました。空床の5床は、短期入所事業のベッドとして受け入れを行い、学園の職員が中心となり対応しています。

それでも、部門としては収支が合わず、最終的には他会計の第 1 号事業より 12.8 百万円ほどの繰り入れを行いました。

(3) 支援の充実化

学園生は長年の入所となり、平均年齢が60歳になりました。加齢による身体機能の変化と特に嚥下機能の衰えが目立つようになりましたが、週1回の医師の回診できめ細かく状態を診ることで、大きな病気はなく経過できました。

(4) 学園のリスク管理対策

新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきたものの、引きつづき院内感染委員会で状況把握や対応を検討したものを共有し、日々の感染予防に努めています。

医療安全については、小さな気づきを大切にヒヤリ・ハットレポートを活用し、大きな事故発生につながらないように努めています。安全のため、介助方法にの検討(移動時の二人介助の徹底)も実施しました。また、権利擁護について職員会議の中で「虐待防止」研修を行いました。

(5) 学園の今後についての摸索

学園生の減少(定員15名のところ現員10名)を受け、学園の今後の進む方向を検討していく一年間として歩み出しました。

まずは、現状の共有をすべくステークホルダーでもある学園生の保護者に、コロナ禍で開催できていなかった保護者を3年ぶりに開催しました。現在の学園の収支状況や、学園生の加齢に伴う現状なども含め、その後、計3回にわたり保護者会を開催して保護者との協力関係を構築してきました。

さらに、5月には東京都を訪問し、学園の現状について伝え、今後の対応について協議をしま

した。東京都とは、現在の無認可の委託事業であることも鑑み、許認可事業（療養介護施設）の可能性も含め協議を行ってきました。

今後については、許認可事業への移行の可能性も検討しながら、持続可能な障害福祉部門としていくために引き続き取り組んでいきます。

3 年間行事

(1) 通年行事

- ・面会(オンライン含む)
- ・誕生会(該当月)
- ・実習生受け入れ(9月に2人受け入れ)
- ・避難訓練
- ・ボランティア受け入れ(中止)

(2) 各月の行事

- 4 月 ドライブ
- 5 月 端午の節句
- 6 月 個別外出
- 7 月 セタ・オヤツバイキング
- 8 月 納涼会(病棟と合同)
- 9 月 音楽パーティー(中止)
- 10月 個別外出(中止)・ハロウィン・記念会
- 11月 焼き芋(ヨリドコ祭りにて配布)・おやつバイキング
- 12月 クリスマス会(病棟と合同)
- 1 月 元旦食事会・書初め(中止)
- 2 月 節分・バレンタインバイキング
- 3 月 ひな祭り・年度末食事会

以上

2023(令和5)年度 事業報告(第3号事業)

当法人では、2020 年 10 月より開始したメディカル・ヴィレッジ事業を、今年度より「在宅・地域部門」に改称し、4 期目となりました。

当部門は医療・介護サービスを提供する事業と飲食事業およびコミュニティ事業を運営する、2 つの事業から成り立っています。

医療・介護サービスにおいては、本年度は以前より地域からの需要が高い、訪問診療事業を新たにスタートしました。新たな事業の拡大により、地域の方々の健康に関する要望にこれまで以上に応えることができるようになりました。

コミュニティ事業では、「人と『つながる場』」、「力を『生かす仕組み』」、「学びを『育む環境』」を提供することをビジョンとして掲げ、前年度と同様に、ヨリドコ小野路宿に関わる方々に「あるといいながあるところ。」と感じていただけるよう事業運営を行ってまいりました。

以下、各号に従い詳細をご報告いたします。

1 在宅・地域部門の事業概要

当事業が担う事業は①訪問診療、②訪問看護リハビリステーション、③飲食事業、④コミュニティ事業の 4 つに分類されます。

① 訪問診療

2023 年 6 月より、医療保険を用いた在宅療養する患者・利用者への訪問診療を提供しています。

② 訪問看護ステーション

「訪問看護リハビリステーションヨリドコ」という施設名で、2020 年 10 月より、主に介護保険および医療保険を用いた在宅療養する患者・利用者への訪問看護およびリハビリサービスを提供しています。

③ 飲食事業

「kitchen とまりぎ」という施設名で、ランチタイムおよびティータイムをメインとした営業を、2021年1月から開始しております。

④ コミュニティ事業

集会所、蔵、和室(母屋)、裏山およびガーデンのスペースレンタル事業を始め、イベントやワークショップなどを企画・提供する事業を行っております。

2 訪問診療

(1) 事業概況

訪問診療事業は、地域の高齢者や通院困難な方々への医療提供を目的として展開しています。2023 年 6 月に家庭医療専門の常勤医が着任し、着任以降、利用者数は約 50 名に増加し

ました。また、年間で3件以上の看取りにも対応しています。自法人の訪問看護リハビリステーションをはじめ、周辺の病院や施設、訪問看護ステーションとも連携を強化しています。

(2) 今後の計画

来年度には医師を更に1名採用し、更なるサービス拡充を目指します。地域のニーズに応え、訪問診療の需要に対応する体制を強化します。また、周辺施設との連携を密にし、看取り患者への対応をさらに進めていくことを目指します。母体である病院とも連携を強化し、入退院をシームレスに行える体制を目指します。

3 訪問看護リハビリステーション

(1) 事業概況

訪問看護リハビリステーションは4期目を迎え、訪問看護リハビリステーションの管理者が変更し、新体制となりました。更に常勤看護師1名、常勤リハビリスタッフ1名を新たに採用し、順調に拡大を続けています。毎月の新規利用者の相談は約3-5件で、事業は安定的に成長を遂げています。

本年度から開始した訪問診療との連携も良好であり、訪問診療・訪問看護が連携して、在宅看取りに対応することができました。質的な評価では、本年度は日頃よりお世話になっている周辺施設への満足度アンケートを実施しました。結果として、25名の方に回答いただき、全ての項目において平均4点以上(5点満点中)と、非常に満足度の高い結果が得られました。

(2) 今後の計画

来年度は看護師2名、リハビリスタッフ1名、事務1名の追加採用を予定しています。また、看護師の役職者を1名追加登用することで、管理者との役割分担を図り、事業の安定運営を目指します。訪問件数としては、看護師1日当たりの訪問件数を4.5件、訪問リハビリ1日当たりの訪問件数を5件とし、目標達成に向けて利用者獲得に注力します。並行して、医療保険、介護保険の改正に向けて、準備を進めます。

4 飲食事業

(1) 事業概況

飲食事業を担うkitchenとまりぎでは、2つのカフェがそれぞれ日替わりで運営されています。順調に顧客も増え、リピーターも増えています。コミュニティ事業とコラボしたイベントも多く実施し、その際にはランチの売り上げも好調です。さらに、週1回の夜間営業も行っており、新たな顧客を獲得しています。週1回の夜間営業は地域との新たな繋がりが生まれる場であり、地域の方々が集まり、語り合う憩いの場となっております。

(2) 今後の計画

来季の計画としては、①顧客の増加、②収益改善、③コミュニティ事業とのコラボレーションを目指します。新メニューの開発や惣菜の販売を通じて新規顧客を獲得し、職員の雇用形態や経費の見直しを行い、収益改善を目指します。また、イベント時のカフェ利用促進や PR 活動を通じて、コミュニティ事業との連携を強化します。

5 コミュニティ事業

(1) 事業概況

これまでは専属の職員は配置せず、訪問看護リハビリステーションとの兼務でしたが、本年度からコミュニティ事業に専属職員を 1 名配置しました。年間を通して、地域イベント、勉強会を数多く開催しています。地域の方々が自主的に行うイベントも盛に行われており、コミュニティスペースの稼働率は昨年同様 80%を超えています。

また、5 月に名古屋で行われたプライマリケア連合学会では、医療×地域コミュニティ事業の実践例として学会発表を行いました。多くの医療介護福祉職に関心を持っていただき、全国の学生さんや事業所が視察、見学に訪れました。その結果、年間来場者数が 1 万人を超え、地域との良好な繋がりが維持されています。

(2) 今後の計画

来季の計画としては、①コミュニティの深耕、②居宅介護支援事業所の開設を目指します。小野路に住む地域の方々との繋がりをより深めるための、イベント運営や関連団体のサポート方法を模索していきます。

さらに、新事業として居宅介護支援事業所の開設を予定しています。ケアプラン作成を目的とした一般的な居宅介護支援事業所ではなく、ヨリドコ特性(コミュニティ事業との連携)を生かし、医療、介護、予防、日々の困りごとなど、地域の幅広いニーズに対応できる、居宅介護支援事業所を目指してまいります。

5 年間行事

2023年度のヨリドコ小野路宿での公式な行事は、7 月に小野路町内会の盆踊りを共催として開催したほか、3 月にヨリドコ祭りを実施いたしました。そのほかは、ヨリドコ小野路宿では、日々様々な団体による行事が開催されています。

以上